

## 〔 横浜美術館 〕

## 平成 23 年度業務計画及び収支予算

〔横浜市芸術文化振興財団・相鉄エージェンシー・三菱地所ビルマネジメント共同事業体〕

※ 文中の事業欄において、  
●：主催事業。○：共催事業  
を示します。

※ 文中の達成指標欄において、  
□：定量的指標。■：定性的指標  
を示します。

## 1 施設の概要

施設名	横浜美術館
所在地	横浜市西区みなとみらい3丁目4番1号
構造・規模	鉄骨鉄筋コンクリート造8階建 一部3階建
敷地・延床面積	26,829.40 m <sup>2</sup>
開館日	平成元年11月3日

## 2 指定管理者

法人名	横浜市芸術文化振興財団・相鉄エージェンシー・三菱地所ビルマネジメント共同事業体
所在地	横浜市中区北仲通4-40 商工中金ビル5階
代表者	代表構成団体 公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 理事長 澄川 喜一
設立年月日	平成20年4月1日
指定期間	平成20年4月1日から平成25年3月31日まで

## 3 指定管理に係る業務方針

## (1) 基本的な方針

横浜美術館は、市民の「みる」「つくる」「まなぶ」場として、次の3つを基本的な方針とします。

- 1 高い専門性に裏付けられた活動を通して、美術の新しい価値を生み出す美術館を目指します。
- 2 だれもが美術に親しみ、自らの創造性を高めることのできる美術館を目指します。
- 3 「文化芸術創造都市・横浜」の実現に寄与する美術館を目指します。

## (2)平成 23 年度の位置づけ

**【事業の方針】**

横浜美術館は文化芸術創造都市「横浜」の中にあつて創造性、発信性、協働性、未来性の4つの方向性をもった美術館を目指すことを大きな方針とします。

- 創造性-従来の観点にとらわれない美術の新たな価値を発見し、あるいは生み出す美術館
- 発信性-美術の新たな価値を世界に向けて積極的に発信する美術館
- 協働性-市民の参加や体験を重視した双方向性型事業を展開する美術館
- 未来性-未来を担う子どもたちの感性を育み、自立を助長する活動を提供する美術館

特に平成 23 年度は横浜トリエンナーレ2011の主会場として、「みる」「そだてる」「つなげる」を事業の基本理念として、創造都市横浜にふさわしい日本を代表する都市型国際展を展開します。

**【運営の方針】**

横浜美術館は、次の3つを事業運営上の方針とします。

- 安全・安心・親切をモットーにした運営
- 街に溶け込む美術館になるための周辺との連携
- 改善のチェックとスピーディーな行動

**【管理の方針】**

横浜美術館は、指定管理者共同事業体での管理運営ノウハウを活かし、より安全で快適な施設を維持することを施設管理上の方針とします。

## 4 自主事業に関する事業計画

## (1) 収蔵美術品等の収集・保管・管理・調査・研究について

## 1) 専門的研究に基づく作品収集

[取組み内容]	[達成指標]
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 内部検討委員会への提案               <ul style="list-style-type: none"> <li>・購入候補、寄贈寄託候補作品について、専門的な観点から必要な調査研究を行い、その妥当性を検討します。検討に基づき策定された収集候補作品案を内部検討委員会に提案します。</li> <li>・収集方針に基づく候補案の策定に加え、「中期重点取組方針」も鑑みて作品を検討し、内部検討委員会に提案します。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 収集方針および「中期重点取組方針」に基づき、収集候補作品案を提案します。</li> <li>■ 市民に親しまれるコレクションを形成できるよう、魅力的な購入作品候補案を提案します。また、寄贈候補作品案を提案します。</li> <li>■ 歴史的に見て本市とゆかりの深い貴重な美術作品等の収集案を提案します。</li> <li>■ 国際的な活躍が期待できる優れた若手アーティストの作品収集を提案します。</li> </ul> <p>□ 内部検討委員会における提案：年1回</p>

## 2) 適切で安全確実な保管・管理の実現

[取組み内容]	[達成指標]
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 収蔵美術品等の正確なデータベース構築 美術作品、作家の履歴データを遅滞なく入力します。</li> <li>● 収蔵庫等の保管環境の監視 中央監視室との連絡を密にして、環境の異常を遅滞なく把握し、問題点を報告します。また、可能な範囲で対策をとります。</li> <li>● 収蔵美術品等の貸出 決められた手続きを踏まえて、美術品等を他施設の事業のために貸与し活用します。</li> <li>● 収蔵美術品等の特別利用(熟覧) 決められた手続きを踏まえて、研究者や専門家に収蔵美術品等の熟覧の機会を提供し、当該作品の研究に資します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 収蔵美術品を正確にデータベース管理し、収蔵庫等の保管環境を監視します。</li> <li>■ 適切な手続きに則り、収蔵美術品を国内外の他施設に貸し出し、また、特別利用の機会を提供します。</li> </ul>

## 3) 計画的な修復の遂行

[取組み内容]	[達成指標]
<p>● 修復計画の策定 前年度末もしくは当該年度当初に、収蔵美術品の修復(洗浄、補彩、成形、充填、ルースライニングなど)、新規額装・マット装、新規表装、額・表具の修理などについて、優先順位を決めて、年度修復計画案を策定します。この計画案に基づいて、修復業務を外部専門業者・専門家に委託します。</p>	<p>■ 年度修復計画を、前年度末もしくは当該年度当初に策定します。</p> <p>■ 「横浜美術館コレクション・フレンズ」プログラムの支援を受けて、コレクションの修復や保全、展示ガイドツールの整備を進めるなど、市民の力によってコレクションを守ります。</p>

## 4) 調査・研究

[取組み内容]	[達成指標]
<p>● 企画展・コレクション展の内容の検討 作家、作品等に関する学芸員の日常的な調査研究の成果を展覧会の内容に反映させます。</p> <p>● 『紀要』の発行 調査研究の成果を、論文または研究報告の形にまとめ、『紀要』として発行します。</p>	<p>■ 企画展・コレクション展の内容に調査研究の成果を反映させます。</p> <p>□ 研究成果をまとめた『紀要』を発行し、関連する研究機関等に配布し、研究成果を広く還元します。</p>

## (2) 美術品等の展示及び活用について

## 1) 企画展・コレクション展

[取組み内容]	[達成指標]
<p>●以下の 3 点を念頭に置いて、多彩な企画展を開催し広く美術の普及を図ります。</p> <p>1 メディアとの共催・連携によるポピュラリティの高い展覧会を実施します。</p> <p>2 トリエンナーレの実施期間中のコレクション作品の安全に保管します。</p> <p>3 今後さらなる躍進が期待される若手・中堅アーティストの個展を実施します。</p> <p>●横浜らしさと多彩さを両立させたコレクション展を開催し、当館を代表する所蔵品をバランスよく展示します。</p> <p>横浜美術館を特徴づける主要作品を中心に、収集分野をバランスよく紹介するとともに、纏まった数を擁する作家等を中心にしたテーマ展示を合わせて行い、コレクションの横浜らしさを様々な視点から演出します。</p> <p>● コレクション展・企画展で、ワークシートや鑑賞会等の教育普及プログラムを実施します。</p> <p>●市民参加型のコレクションの支援プログラム「横浜美術館コレクション・フレンズ」事業を運営し、コレクションの鑑賞と理解及びコレクションの保全や展示ガイドツールの改善に役立てます。</p> <p>● 地域商業施設や関係組織との連携企画展において、各展覧会の条件・内容に応じて、地域商業施設や関係組織の連携事業の立案・実施に積極的に協力します。</p>	<p>□次の企画展を開催します。</p> <p>◇プーシキン美術館展 フランス絵画 300 年 2011 年 4 月 2 日(土)～6 月 26 日(日) 75 日間 入場者見込み 240,000 人</p> <p>◇横浜トリエンナーレ 2011 2011 年 8 月 6 日(土)～11 月 6 日(日) 87 日間 入場者見込み 83,000 人</p> <p>◇松井冬子展(仮称) 2011 年 12 月 17 日(土)～2012 年 3 月 18 日(日)75 日間 入場者見込み 30,000 人</p> <p>■ コレクション展を開催します。</p> <p>◇第1期 4 月 2 日(土)～6 月 26 日(日)</p> <p>◇第2期 12 月 17 日(土)～3 月 18 日(日)</p> <p>8 月 6 日(土)～11 月 6 日(日)は、横浜美術館のコレクションを横浜トリエンナーレ 2011 の展示作品として活用します。</p> <p>■コレクション展、企画展における教育普及プログラムを強化します。企画展の性質に応じて地域商業施設や関係組織との事業連携をはかります。</p>

(3)情報の収集及び情報化、提供及び活用について

1)ニーズに対応した美術情報の提供

[取組み内容]	[達成指標]
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 資料の収集、整理、保存                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・美術に関する図書資料(和書、洋書、和洋 展覧会カタログ)、非図書資料の収集、整 理、保存を行います。</li> <li>・継続図書、和洋美術雑誌を継続して購入す るとともに、寄贈および資料交換にて収集を 行います。</li> </ul> </li> <li>● 蔵書管理                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書資料について書誌データの作成、登録 を行い、蔵書管理システムに反映させます。</li> <li>・年に一度蔵書点検を実施し、所蔵確認を行 います。</li> </ul> </li> <li>● 資料の提供                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者からの閲覧申し込みに応じて閉架の 資料を出納します。</li> <li>・利用者からのレファレンスに対応します。</li> <li>・センター内に展覧会関連資料コーナーを設 置するとともに、映像資料も紹介し、展覧会 事業を支援します。</li> </ul> </li> <li>● 資料の簡易な修復や非図書資料の整理 に、ボランティアを公募し受入れます。</li> <li>● インターネットを通じて広く一般に蔵書検索 (OPAC)の公開を行います。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・美術情報センター蔵書検索(OPAC)</li> <li>・ALC : Art Libraries' Consortium(美術図書 館連絡会) 8 館 10 室横断検索</li> </ul> </li> <li>● 美術情報センターの認知度を上げるため、 バックヤードツアーなどの普及事業に取り組 みます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 資料の収集、整理、保存につとめます。</li> <li>□ 美術図書と映像を活用して展覧会事業を支 援し、トピック的な「特設資料コーナー」を通 年約 10 種設置します。</li> <li>■ 美術情報センターで年間を通してボランティ アを受入れます。</li> <li>■ 美術情報センターの蔵書検索(OPAC)を公 開します。</li> <li>□ 市民を対象とした美術情報普及事業を開催 します。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・美術館塾受講生へのオリエンテーションや見 学会を開催します。</li> <li>・市民利用者対象の探検ツアー 年 3 回</li> </ul> </li> </ul>

(4)教育普及に対する取り組みについて

1)美術に親しむ市民の拡大

[取組み内容]	[達成指標]
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 企画展、コレクション展といった展覧会の開催を通じて、作品の鑑賞を通じた教育普及を行います。(再掲)</li> <li>● 近隣在住・在勤の皆さんが横浜美術館にもっと親しんで気軽に来館してもらえる機会をつくります。(近隣プログラム)</li> <li>● 産業や環境問題など市民生活に密着した問題に取り組む活動団体と連携し、新たな市民層へ美術との接点を広げる講座を実施することで市民に美術館の存在をアピールします。</li> <li>● 7 点の所蔵作品の支援プログラム「横浜美術館コレクション・フレンズ」を運営します。(再掲)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 企画展ごとに講演会などの関連事業を開催し、作品や作家その他企画内容についての一般の理解を深めます。ワークシートの活用したプログラムも実施します。(再掲)</li> <li>■ 近隣住民や近隣企業の皆さんと連携して、鑑賞会を含むオープンスクールを開催します。</li> <li>□ 他団体と連携した内容の活動を年 1 回行います。</li> <li>□ 展覧会と連携した市民のアトリエの講座を年 2 回開催します。</li> <li>□ 所蔵作品の保存と展示に焦点をあてた支援プログラムを発足し、参加者 150 名を目標に募集します。</li> <li>□ 年に 2 回フレンズの交流会を開催し、コレクションに対する理解を深めてもらうとともに、支援金の使途を報告します。</li> </ul>

2)市民の創作活動等への支援

[取組み内容]	[達成指標]
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 様々な人へ開かれた内容や、美術が苦手の人でも参加しやすい講座やワークショップを開催します。</li> <li>● 地域(他団体)と連携し、作家や職人、専門家等を講師として、環境や産業等と関連した講座を開催します。</li> <li>● 版画室、平面室、立体室の施設特性を生かして、市民の自律的な創作を支援するオープンスタジオを開催します。</li> <li>● コレクションや企画展等、展覧会関連の内容の講座を開催します。</li> <li>● 現代の作家や制作を紹介する講座を開催します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 美術の初心者向けのワークショップを 10 回開催します。</li> <li>□ 地域(他団体)連携をした講座を 5 回開催します。</li> <li>□ オープンスタジオを年 20 コース開催します。</li> <li>□ 展覧会関連の講座を 2 回行います。</li> <li>□ 現代の作家や技術を紹介する講座を 15 回行います。</li> <li>□ 市民のアトリエでも受益者負担を導入し、年間を通して目標参加人数を 5,000 人とします。</li> </ul>

## 3) 子どもに対する取り組み

[取組み内容]	[達成指標]
<p>● 学校教育と連携したより充実したプログラムを実施します。</p> <p>・学校のためのプログラム 横浜市内の幼稚園・保育園 35 園、小学校 35 校、特別支援学校＋区ごとの個別支援学級団体＋各種学校 20 団体を対象に、素材と関わるワークショップ、および鑑賞活動を行います。</p> <p>・「学校のためのプログラム」のトリエンナーレ開催中にあたる日程にはトリエンナーレに配慮したプログラムも提供します。</p> <p>● 魅力ある講座を企画・開催し、各種講座の周知に努めます。</p> <p>・個人の造形講座 ・教師のためのワークショップ</p> <p>● 親子のフリーゾーンを開催し、子どもの意欲を育てる「子育て支援」と位置づけて親子に開放し、若い子育て世代と美術館とをつなぎます。</p> <p>● 教師との連携を強化します。</p> <p>◇アートティーチャーズデー 企画展ごとに市立小・中・高校の美術教師を対象としたレクチャーを開催し展覧会の周知に務めます。</p> <p>◇講演・研修 放課後や夏休み期間を利用し教師や学生への研修を積極的に行います。</p> <p>◇学校と連携して鑑賞教育への導きを行います。</p> <p>● 夏休みを活用して鑑賞プログラムを実施します。中学校の美術教師からなる「アートティーチャーズサポーター」と協働して小・中学生への対応をします。</p>	<p>□子どものアトリエ講座定員・定数の 100%確保を目指します。</p> <p>□学校のためのプログラム 年間 90 日</p> <p>□個人の造形講座年間 22 講座(定員 440 名)</p> <p>□教師のためのワークショップ春期講座、夏期講座各 2 日間(定員各 40 名)</p> <p>□親子のフリーゾーンを年間 42 回開催します。</p> <p>□アートティーチャーズデー 企画展ごとに 1 回開催</p> <p>■夏休み子どもフェスタ2011 を開催します。横浜トリエンナーレに連動した内容で実施します。</p>

## (5)横浜トリエンナーレについて

## 1)トリエンナーレ本展について

[取組み内容]	[達成指標]
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 横浜トリエンナーレ2011の主会場として、魅力的な国際美術展の企画および施設運営に全面的に協力します。</li> <li>● 横浜トリエンナーレ組織委員会と連携をはかり、スムーズな運営体制を築きます。</li> <li>● 横浜トリエンナーレ 2011 の出品作家および作品について、情報を収集、提供し、企画立案に寄与します。</li> <li>● 展覧会実現にむけて作家、出品者等との連絡調整を行います。 コレクションを持つ会場施設の強みを活かし、横浜美術館会場の企画展示に横浜美術館学芸員が関わります。</li> <li>●横浜美術館の施設については、横浜トリエンナーレ 2011 の主会場として案内、警備、清掃、施設管理を確実にを行い、展覧会を安全に運営します。</li> <li>● 次回以降の横浜トリエンナーレ開催にむけた準備を行います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 創造都市事業本部や組織委員会と調整し、2011年 8 月 6 日(土)から 11 月 6 日(日)横浜トリエンナーレ 2011 の主会場とします。</li> <li>■横浜トリエンナーレ 2011 のテーマに沿った作家の出品を達成するとともに美術館のコレクションを活かし、両会場の展示構成を行います。また横浜トリエンナーレ 2011 の出品アーティスト選定に必要な基礎的調査を担当学芸員が行います。</li> <li>■ 次回以降の横浜トリエンナーレにむけて、横浜トリエンナーレ 2011 の展覧会記録の編集に協力します。記録を継続的に蓄積することにより大型国際展開催のノウハウの継承に貢献します。</li> </ul>

## 2)トリエンナーレ市民協働事業について

[取組み内容]	[達成指標]
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 横浜トリエンナーレをささえる市民サポーターを育成します。これにより創造都市全体の市民協働の広がりをうながします。</li> <li>● トリエンナーレ学校を定期的で開催し、サポーターのモチベーションを高めます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■NPO 法人黄金町エリアマネジメントセンターと協働し、トリエンナーレサポーター事務局の運営に関わります。</li> <li>■トリエンナーレ学校およびサポーターがかかわる関連プログラムの企画立案を行います。</li> </ul>

## 3)トリエンナーレ組織委員会事務局運営について

[取組み内容]	[達成指標]
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 横浜トリエンナーレ組織委員会による事務局運営を支援します。</li> <li>● 事務局運営に必要な人材を派遣し、支援体制の強化をはかります。 次回展以降の事務局継続にむけたシステムおよびインフラ整備を行います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 組織委員会事務局に一定数の職員を配置し、スムーズな事務局運営をはかります。</li> <li>■ 次回展以降の開催に向け、本展の開催にかかる事務局体制及び、収支の検証を行い、大型国際展を継承するための組織体制及び財源計画の確立を目指します。</li> </ul>

## (6)その他美術の振興に関することについて

## 1)市民との協働・人材育成の推進

[取組み内容]	[達成指標]
<ul style="list-style-type: none"> <li>● ボランティアの事業参画 美術情報センター、子どものアトリエ等の事業において、ボランティアが参画する場を提供します。</li> <li>● インターンを受入れ、子どものアトリエ等で実地の経験を提供し活動の理論と実践を教授します。</li> <li>● ボランティア・モニタリング 企画展やコレクション展の内容について、各年齢層のボランティアによるモニタリングを実施し、向後の事業内容の策定に当たって参考とします。</li> <li>● 美術館研修・学芸員研修 横浜美術館塾のプログラムのひとつに位置づけられている美術館研修のカリキュラムを、美術館の現場に即して立案し、人材の育成に貢献します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□美術館の各事業で、随時ボランティアを募集し市民参画の機会を提供するとともに、企画展、コレクション展においてボランティアによるモニタリングを実施します。(ボランティア 25 人、インターン 5 人)</li> <li>■インターンを受け入れます。</li> <li>■美術館研修・学芸員研修の魅力的なカリキュラムを立案するとともに、8 階施設等を実習に活用し、次代の人材育成に貢献します。</li> <li>□研修を夏季に1回実施します。</li> </ul>

## 2)文化専門施設との連携事業の展開

[取組み内容]	[達成指標]
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 横浜市の中期計画および財団の中期経営計画を見据え、専門文化施設の連携を進めます。財団が運営する専門文化施設間の意見交換、情報共有を進め、相互の専門性を活かした連携事業実施や、共通機能を集めた効果的な事業実施を検討していきます。</li> <li>● 美術以外のジャンルと連携した企画展関連事業を立案し、来館者の関心を高めます。</li> <li>● 他施設、組織との連携事業 大学との連携により、コレクション展の独自のホームページを作成します。三溪園との協働により、同園が所蔵する未刊行の史料の調査および三溪旧蔵作品のデータベース化に取り組みます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■みなとみらいホール、能楽堂、にぎわい座、赤レンガ等財団の他の専門文化施設との事業・広報連携を実施するため、施設横断的な定例的連絡会に参加します。</li> <li>■企画展ごとに演劇、ダンスなど他ジャンルと連携した企画展の関連事業を開催実施します。</li> <li>■大学と連携して美術教育プログラムの立案および広報に取り組みます。</li> <li>■三溪園との連携による原三溪関連資料の調とデータベース化へ取り組みます。</li> </ul>

## 5 施設の運営に関する事業計画

## (1)施設の提供・利用について

## 1)利用者の利便性を踏まえた適切な施設の提供

[取組み内容]	[達成指標]
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 休館日を活用して、保守点検等施設維持管理に必要な業務を効率的に実施します。</li> <li>● 企画展会期中は週1回の開館延長日を設定、仕事帰りや観光のお客様に気軽に立ち寄っていただけるようにします。</li> <li>● 施設維持管理業務と調整しながら、施設の収益増につながる事業を開催します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■施設の安全な維持管理のため、休館日を活用した保守点検等を、業務の基準に基づき確実にを行います。</li> <li>□企画展会期中の毎週金曜日は 20 時まで開館延長します。</li> <li>■集客を見込む展覧会会期中に効率的に臨時開館を行います。</li> <li>■休館日を活用し、施設を活用した協賛金獲得目的事業などを行います。</li> </ul>

## 2)施設の有効活用について

[取組み内容]	[達成指標]
<p><b>【レクチャーホールの利用促進】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● レクチャーホールの空き状況をホームページで公開し、利用促進を図ります。</li> <li>● レクチャーホールを活用した自主事業の展開に努めます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・展覧会関連講演会の開催</li> <li>・団体客を対象とした学芸員によるレクチャー</li> <li>・平日枠限定の割引プランの販売</li> </ul> </li> </ul> <p><b>【グランドギャラリーの空間を活かした活用】</b> グランドギャラリーの消防設備として湿式配管による開放型のスプリンクラーヘッドが導入されることにより、消火能力が向上し、作品展示やイベント開催上の制約が改善されます。このためグランドギャラリーの空間を展示や事業に、これまで以上に有効に活用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 企画展と連動した関連事業の会場として利用します。</li> <li>● Heart to Art 事業で協賛いただいた企業と連携した活動の場として活用します。</li> </ul> <p><b>【8階施設の魅力を活かした活用】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 50 名規模の中規模の鑑賞会を定期的に実施します。芸術文化活動の場所として、主</li> </ul>	<p><b>【レクチャーホールの利用促進】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□ 利用率 70%を目指します。</li> </ul> <p><b>【グランドギャラリーの空間を活かした活用】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■横浜トリエンナーレで美術作品の展示に活用します。</li> <li>■椅子やパンフレットラックなどの什器やサインスタンドの配置を通して、快適なエントランス空間としての活用を進めます。</li> <li>■企画展と連動したイベント等に活用します。</li> <li>■外部と連携した事業に活用します。</li> </ul> <p><b>【8階施設の魅力を活かした活用】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□目標売上 420 万円。</li> <li>□横浜美術館塾の教室として活用します。</li> </ul>

<p>催、共催形態の商品を開発、販売します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 横浜美術館塾の拠点とします。横浜美術館ならではのアート発信の場として活用を行います。</li> </ul> <p>【円形フォーラムの積極活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 円形フォーラム予約状況を職員全員がオンラインで共有し効率的な活用に努めます。</li> <li>● 企画展のオープニングレセプションや関連事業の会場として活用します。</li> <li>● 内部利用のみならず、外部からの利用希望にも柔軟に対応します。</li> </ul>	<p>目標売上 180 万円。</p> <p>【円形フォーラムの積極活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 会議やシンポジウムなどのスペースとして活用します。</li> <li>■ 企画展等の連携事業の会場として活用します。</li> <li>■ 外部と連携した活用を行います。</li> </ul>
---	---

(2)広報・PR 戦略について

1)様々な手法による広報の取り組み

[取組み内容]	[達成指標]
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 美術館の基本的な情報および開催する主要な企画についての情報について英語での情報提供を行います。</li> <li>● 美術館の事業に親しみをもってもらえるよう、事業の進行状況等をニュース配信していきます。</li> <li>● メールマガジンを定期的に配信し事業実施についての情報提供を効果的に行ないます。</li> <li>● 各アンケート調査の結果を参考に効果的な広報につなげます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ ホームページをより見やすいものに改善して 300 万ページを目指します。</li> <li>□ 横浜美術館コレクション・フレンズを継続し 100 人の参加者を目指します。</li> <li>■ リピーター割引を継続します。</li> <li>□ 近隣マンションや近隣企業、病院など、少なくとも 5 施設以上との広報連携をします。</li> <li>□ メールマガジンは月 2 回の定期配信をします。</li> <li>□ メールマガジン登録者数 10% 拡大を目指し、4,400 人にします。</li> <li>□ データ分析に必要な年間 2,000 人分の来館者アンケートの収集を目指します。</li> </ul>

## 2)情報提供

[取組み内容]	[達成指標]
<ul style="list-style-type: none"> <li>● ホームページで各企画展、コレクション展を分かりやすく紹介します。英語による表記を取り入れ外国人へも美術館の情報を分かりやすく提供します。</li> <li>● メールマガジンを活用しタイムリーにリピーター層に情報を提供します。</li> <li>● メディアへの情報提供を積極的におこない幅広い層に分かりやすく情報を提供します。</li> <li>● マスコミの情報提供力を活用した大規模動員型の企画展をメディアと共催します。</li> <li>● 各企画展を中心にプレスリリース、記者発表を積極的に行ない、事業の事前周知および成果を周知していきます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ ホームページのバイリンガル化を継続するとともに外国語対応の拡大を進めます。</li> <li>■ メールマガジンを活用し情報を配信します。</li> <li>■ メディアを活用した情報提供を行います。</li> <li>■ プーシキン美術館展 フランス絵画 300 年を朝日新聞社、テレビ朝日と共催します。</li> <li>■ 企画展その他、新規事業開催のたびに記者発表を行います。</li> </ul>

## (3)顧客サービスについて

## 1)新規顧客の開拓

[取組み内容]	[達成指標]
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 共同事業体である三菱地所ビルマネジメントが管理するランドマークプラザをはじめ、近隣商業施設とタイアップし、広報を展開します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・企画展の半券提示で飲食店割引</li> <li>・ランドマークスカイガーデンと連携した商品開発</li> </ul> </li> <li>● 近隣宿泊施設とタイアップして宿泊プランや展覧会特別限定メニューを企画します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 企画展ごとに周辺商業施設と連携し、誘客方策を展開し観客誘致を図るとともに、街の活性化にも貢献します。</li> </ul>

## 2)リピーターの獲得

[取組み内容]	[達成指標]
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 横浜美術館独自の支援プログラムを運営します。</li> <li>● リピーター割引を継続します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・観覧済みの企画展有料チケットの半券提示で団体割引とします。</li> </ul> </li> <li>● 希望する団体入館者に対し、担当学芸員の事前ミニレクチャーを行います。</li> <li>● 約 7,000 人の近隣マンションの居住者を有望なリピーターとして、情報提供、特典の提</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 横浜美術館コレクション・フレンズを運営します。100 人の参加者を目指します。</li> <li>■ リピーター割引を継続します。</li> <li>■ 継続的な団体客誘致の取り組みを行います。</li> <li>■ 近隣マンション自治会と連携します。</li> </ul>

供等を行います。	
----------	--

## 3)チケット販売

[取組み内容]	[達成指標]
<ul style="list-style-type: none"> <li>● メディアと共催する企画展でペアチケットや早割りチケットなどの企画チケットを商品化し販売します。</li> <li>● 美術館窓口以外での販路拡大を目指します。</li> <li>● 企画展前売券を展覧会開始日の2ヶ月前からミュージアムショップで販売します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ ペアチケットや早割りチケットなどを企画展に応じて取り入れます。</li> <li>■ オンラインでチケットを販売します。</li> <li>■ 近隣プレイガイドでチケットを販売します。</li> <li>□ 企画展前売券は2ヶ月前から販売します。</li> </ul>

## (4)館内サービスについて

## 1)魅力あるミュージアムショップの運営

[取組み内容]	[達成指標]
<ul style="list-style-type: none"> <li>● グランモール公園側の正面入口横という外部からのアクセスに優れた立地を活かし、入館者の利便向上を通じた美術館の魅力アップと収益性の両方を目指します。</li> <li>● お客様目線で、ニーズに応える商品を取り扱い、展覧会へお客様を誘導する工夫をします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・展覧会関連商品コーナーの設置。</li> </ul> <p>特に横浜トリエンナーレ会期中は現代アート関連商品を取り揃え展覧会会場との統一感を演出し、展覧会を盛り上げます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企画展前売券をオンラインで販売します。</li> <li>・プライスカードなどのデザインを工夫します</li> <li>・オンラインショップの商品充実を図り、露出方法にも工夫をして売上を伸ばします。</li> <li>・近隣商業施設とタイアップし、展覧会関連商品を美術館の外でも販売します。</li> <li>・他館のオリジナルグッズを相互販売します。</li> <li>・隣接するカフェや、他施設と連携したチケット販売を行います。</li> </ul> </li> <li>● メディアと共催する企画展では展示構成の中に特設売店も組み込み、お客様動線上に特設売店を設置します。常設ショップと相互に売上向上につながるよう取扱商品を調整します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 年間売上 5,740 万円を目指します。</li> </ul>

## 2) 美術館にある特徴を活かしたカフェ、レストランの提供

[取組み内容]	[達成指標]
<p><b>【カフェ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 委託先と毎月 1 回の定例ミーティングを行って情報を共有し、美術館に相応しい飲食施設としての質とサービスを確保します。</li> <li>● 季節に応じたメニューを開発します。</li> <li>● 企画展ごとに特色ある限定メニューを提供します。企画展の記者発表の際には限定メニューのPRを積極的に行います。</li> <li>● カフェと連携した事業展開を行い集客につなげます。</li> </ul> <p><b>【レストラン】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 美術館事業についてレストランと情報を共有しお客様サービスを向上します。</li> </ul>	<p><b>【カフェ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 展覧会と連携した特色ある限定メニューの提供や、居心地の良い空間演出など魅力的な運営を行います。</li> <li>■ 横浜美術館塾をはじめとする美術館事業をカフェスペースで展開し、売上げ向上に貢献するとともにお客様も楽しめる演出を行います。</li> </ul> <p><b>【レストラン】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□ 横浜市が主催するレストランとの定例会(2ヶ月に1回)に参加し美術館事業の情報提供を行います。</li> </ul>

## (5)利用者ニーズの把握と対応について

## 1)利用者ニーズの把握とその反映

[取組み内容]	[達成指標]
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 企画展の入場者を対象にアンケート用紙の配置方法の改善等により有効なアンケート数を確保し、事業企画や広報に反映させます。</li> <li>● 企画展を中心にモニターを募集し面談方式で意見を聴取します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ アンケートやモニターによる意見といった広聴情報を館の運営に反映するため、広聴反映委員会を展覧会終了ごとに開催し、運営改善を図ります。</li> <li>□ モニター募集数 500 人</li> </ul>

## 2)クレームの的確な対応と改善

[取組み内容]	[達成指標]
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 館内でのクレームは顧客サービス員、顧客サービスディレクター、職員で、丁寧に対応します。</li> <li>● アンケート、Eメールでのクレームには広聴担当が窓口となり、迅速に回答します</li> <li>● 発生したクレームは、報告書として事実関係と対応を記録して職員で情報共有し、市のモニタリングで報告するとともに事後の改善に役立てます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ クレームに対して迅速・適切に対応します。</li> <li>■ 改善できる指摘に対しては迅速に対応し、クレームの減少を目指します。</li> </ul>

## (6)組織体制について

## 1)専門性が十分に発揮できる組織と組織運営

[取組み内容]	[達成指標]
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 必要な分野、専門性を有する学芸員・指導員・情報担当職員を適切に配置します。</li> <li>● 隔週の定例会としてグループ長会議とチームリーダー連絡会を開催し情報共有と意見交換を行います。</li> <li>● 上記会議での議事及び決定事項は職員で情報共有します。</li> <li>● トリエンナーレの組織委員会事務局とも課題があるごとに迅速に調整打ち合わせを行います。</li> <li>● 共同事業体間の情報共有と連絡調整を図るため、定例ミーティングを実施します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・財団と三菱地所ビルマネジメント定例会を開催します。</li> <li>・財団と相鉄エージェンシーとはワークショップの実施案件ごとに打ち合わせを開催します。</li> </ul> </li> <li>● 財団のネットワークを活かした他施設及び、みなとみらい地区周辺施設との連携を図ります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 指定管理者制度に基づく業務執行体制として経営管理グループと学芸教育グループを配置し、計画どおり 40 名を配置します。</li> <li>■ 横浜市の組織統合を受けて、美術館の運営組織の中に、横浜トリエンナーレ事業を継承していく組織体制を作ります。このため 23 年度も引き続き指定管理者制度外組織として横浜トリエンナーレグループを配置し、横浜トリエンナーレ組織委員会事務局の一部を担います。</li> <li>□ グループ長会議とチームリーダー連絡会を定例会として隔週で行います。</li> <li>□ 三菱地所ビルマネジメント定例会 月 1 回</li> <li>■ 相鉄エージェンシー定例会 <ul style="list-style-type: none"> <li>ワークショップ実施案件ごとに開催します。</li> </ul> </li> <li>■ 財団他施設の友の会組織向けにレクチャーつき鑑賞会を企画し観客誘致を図ります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・みらいすとクラブ(横浜みなとみらいホール)</li> <li>・かもん会(横浜能楽堂)</li> </ul> </li> <li>■ 周辺商業施設と連携した相互割引や、近隣ホテルと連携した宿泊プラン、ホテル内レストランでの特別メニュー提供などを行います。</li> </ul>

## 6 施設の管理に関する事業計画

## (1)安心、安全、安定、快適な施設の維持管理について

[取組み内容]	[達成指標]
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 事故を未然に防ぎ、安全に施設を維持管理するため、職員、設備スタッフ、警備員、顧客サービス員、清掃スタッフのすべてが、現場の状況について気を配り、問題が発生した場合は迅速に対応します。</li> <li>● 発生した問題と対処までの経過は報告書を作成し館内で情報共有します。</li> <li>● バリアフリー研修を行います。</li> <li>● 収蔵庫、展示室の温湿度管理の基準を保持、必要に応じて現場を確認しながら作品保全に努めます。</li> <li>● 展覧会場に顧客サービス員を適切に配置します。</li> <li>● 展示作品の安全な管理のため、会期前に顧客サービス員、警備員、清掃員を含む施設管理担当スタッフが担当学芸員から展示会場全体の取り扱いについて説明を受け、安全を確認します。</li> <li>● 各種工事が美術館事業の遂行に影響しないよう日程調整等を行います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 共同事業体の専門性を活かした安全な施設運営を行います。</li> <li>□ バリアフリー研修を年 1 回実施します。</li> <li>□ 展覧会ごとのスタッフによる事前安全確認をポスト確認の中でおこないます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>企画展 3回</li> <li>コレクション展 2回</li> </ul> </li> <li>■ 工事施工について横浜市及び施工業者と事前打合せを行い、館内の情報共有と日程調整を確実にを行います。</li> </ul>

## (2)適切な環境維持管理について

[取組み内容]	[達成指標]
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 三菱地所ビルマネジメントのみなとみらい 21 地区エリアマネージャーが横浜美術館も統括し、スケールメリットを活かした運営を行います。</li> <li>● 施設管理部門の複数の業務を指定管理期間にわたって一括管理することで事務の軽減をはかり、業務の効率化につなげます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 共同事業体の専門性を活かして適切に施設を維持管理します。</li> </ul>

## (3)環境への負荷の軽減について

[取組み内容]	[達成指標]
<ul style="list-style-type: none"> <li>● ゴミ置き場の分別表示をわかりやすくし、正しい分別がなされるように工夫します。</li> <li>● 不適切な分別が見られる場合は迅速に注意喚起を促します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ごみの分別が正しく行われるよう来館者やスタッフの啓発を行い、意識を向上させます。</li> </ul>

## (4)施設予防保全への取り組みについて

[取組み内容]	[達成指標]
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 三菱地所ビルマネジメントが統括する設備、顧客サービス、警備、清掃、レクチャーホールからの日報を館内で情報共有し、施設の不具合に対しては最善の対応策を館内で検討・実施します。</li> <li>● 発見された不具合については改善策を策定します。額により必要に応じて横浜市に改善案を提出します。</li> <li>● 共同事業体で負担すべき修繕は優先順位を考慮して実施します。</li> <li>● 施設管理スタッフの定例会を開催し、現場の声を運営に活かすよう努力します。</li> <li>● 業務の基準に従って保守点検を行います。</li> <li>● 修繕の必要な項目をリストアップし、優先順位をつけ横浜市に報告、提案します。</li> <li>● 横浜市の工事については、仕様書の作成やスケジュール管理に協力し、より効率的に作業が進むように努めます</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■三菱地所ビルマネジメントを中心とした共同事業体のスタッフ体制で統括マネジメントを行い、施設の不具合の早期発見と改善を行います。</li> <li>□施設管理スタッフの定例会を月1回開催します。</li> <li>■業務の基準に基づき適切に管理します。</li> </ul>

## 7 収支目標に関する事業計画

## (1)コスト削減への努力

[取組み内容]	[達成指標]
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 施設管理部分を三菱地所ビルマネジメントが指定管理期間を通して統括管理することで、共同事業体の中にノウハウを蓄積し業務の効率化をはかります。</li> <li>● 展示室や情報センターの運営日を効率よく設定し、ランニングコストの削減をはかります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■施設の効率的な運営によりコスト削減をはかります。</li> <li>・企画展とコレクション展の会期を統一します。</li> <li>・美術情報センターの蔵書点検を展覧会休室期間に設定します。</li> </ul>

## (2)収入向上への努力

[取組み内容]	[達成指標]
<ul style="list-style-type: none"> <li>● メディアと共催する企画展を開催します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・プーシキン美術館展 フランス絵画 300 年 朝日新聞社、テレビ朝日との共催</li> </ul> </li> <li>● 団体客を誘致するため、福利厚生団体との連携や観光バスツアーへの展覧会組込み、事前レクチャーの実施などに積極的に取り組みます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 収益の見込める企画展を開催します。</li> <li>■ 団体客誘致に努めます。</li> </ul>

## (3)外部資金導入、広告等獲得の拡大

[取組み内容]	[達成指標]
<ul style="list-style-type: none"> <li>● Heart to Art 事業、フレンズ事業のファンドレイズと、広報展開を目的とした商業撮影（施設利用）協力、美術鑑賞会、美術館塾の経営を実施します。</li> </ul>	□売上目標 14,400,000 円

## 8 その他の計画

## (1)危機管理対策の充実について

[取組み内容]	[達成指標]
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 消防訓練を実施し、職員の防災意識向上を図ります。</li> <li>● 消防計画を作成し運用します。</li> <li>● 事業実施にあたり概要を所轄消防署に届出ます。特例認定を受けているグランドギャラリー大屋根下部分でのイベントは事前に所轄消防署と協議を行い、適切に運営を行います。</li> <li>● 危機管理マニュアルを必要に応じて改定し、最新のを職員に周知するとともに、事務室内に常備します。</li> <li>● 毎日の現金管理を確実にを行います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□消防訓練を年 2 回実施します。</li> <li>■ 消防法を遵守した施設管理を行います。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・企画展及びイベント開催ごとに消防署に届出を行います。</li> </ul> </li> <li>■ 危機管理マニュアルは常に最新のものを整備します。</li> <li>■ 安全な現金管理を行うため、金庫内の現金を毎日数え、現金有高表を作成します。</li> <li>■ 毎日の売上げ集計は複数名で確認して、確実にを行います。</li> </ul>

## (2)自己評価、PDCA サイクルの導入と確実な運用について

[取組み内容]	[達成指標]
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 企画展終了時に入館者数や収支、広報実績等をまとめ、評価及び反省点を館内で協議し、今後の計画に反映します。</li> <li>● アトリエや横浜美術館塾などの講座については、定員達成度やお客様の声を定期的にとりまとめ、館内で協議するとともに、次回の計画立案に活かします。</li> <li>● 外部の意見を取り入れて運営を改善するため、3名の経営アドバイザーによる経営アドバイザー会議を開催します。多角的に意見を取り入れるため、アドバイザーは経営分野、マーケティング分野、学芸分野からそれぞれ1名ずつとします。任期は平成 22 年度～23 年度の2年間とします。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 事業ごとに個別事業評価で自己評価を行い、次の事業計画に反映します。</li> <li>□ 年に2回事業全体を振り返り指定管理者制度に基づく自己評価を行います。中間振り返りを10月に、年間振り返りを翌年度4月に行います。</li> <li>□ 経営アドバイザー会議を年2回開催します。</li> </ul>

## (3)情報公開、説明責任の的確な実施について

[取組み内容]	[達成指標]
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 個人情報保護研修を職員全員を対象として実施します。</li> <li>● 事業報告・収支決算、事業計画・収支予算をホームページに公開します。</li> <li>● 新収蔵作品目録を発行します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 個人情報保護研修を年1回実施します。</li> <li>□ 事業報告・収支決算、事業計画・収支予算を評議員会承認後1ヶ月以内にホームページで公開します。</li> <li>□ 新収蔵作品目録 2011 を作成します。</li> </ul>

## 9 収支予算額について

## 平成 23 年度横浜美術館収支予算書(案)

(単位：円)

項目	予算額	備考
収入		
指定管理料収入	519,375,000	
利用料金収入	80,445,000	コレクション展、駐車場利用料、LH利用料、図版貸出等
事業収入	210,895,188	企画展、講座料等
助成金等	6,200,000	助成・協賛金、横浜市補助金等
その他収入	131,822,883	駐車場、ミュージアムショップ、カフェ、特定預金取崩等
合計	948,738,071	
支出		
人件費	289,068,740	
管理費	236,815,992	顧客サービス、警備、清掃、保守点検、光熱水費等
事業費	331,287,732	展覧会事業等（案内、警備、光熱水振替分含む）
事務費	22,312,228	消費税、事業所税、券売システム保守等
負担金	857,000	みなとみらい地区協議会等会費
その他支出	68,396,379	ミュージアムショップ、駐車場、カフェ等
合計	948,738,071	
収支計	0	

## 【別紙 1】

## 自主事業一覧

	開催 時期	事業名	会場	事業内容
1	4月   7月	プーシキン美術館 展 フランス絵画 300年	展示室	ロシア、モスクワにある国立 A.S.プーシキン美術館のコレクションより、17 世紀から 20 世紀にかけてのフランス絵画の名品 60 点あまりを展覧。主な出品作家:プッサン、プーシェ、アング ル、ドラクロワ、ミレー、マネ、モネ、ルノワール、ゴッホ、ゴーガ ン、セザンヌ、マティス、ピカソ、レジェ
2	8月   11 月	横浜トリエンナーレ 2011	展示室	横浜トリエンナーレ2011を同組織委員会と連携し、横浜美術 館を主会場として開催します。横浜美術館館長が総合ディレ クターを務めます。
3	12 月   3月	松井冬子展(仮 称)	展示室	2006 年度の日本×画展で採り上げた松井冬子(1974 年、静 岡県生まれ、東京都在住)は、「痛み」を制作の出発点として、 恐怖、狂気、ナルシズムなどをテーマに固有の美意識を示 して注目を集める日本画家。本展は、代表的な本画と試行錯 誤の繰り返しを伝える下絵、未来へ向けた新たな創作の方向 性を示唆する新作によって、松井冬子像の全貌を開示する個 展です。
4	4月   3月	横浜美術館コレク ション展	展示室	横浜美術館の収蔵する美術作品・資料を展示公開し、一般 の利用に供します。日本画、西洋画、日本洋画、版画、彫 刻、工芸、写真、現代美術について、作品保存上の条件を考 慮しながら、できるだけ多くの作品を展示できるよう計画的に 展示します。2 回の展示替を実施します。
5	4月   3月	市民のアトリエ講 座	市民の アトリエ	41 コース ・気軽に参加できる短期のワークショップ。 ・アート表現に取り組むプログラム。 ・時間をかけてじっくり取り組むプログラム。 ・展覧会と連携した内容のプログラム。
6	4月   3月	市民のアトリエ オープンスタジオ	市民の アトリエ	25 コース 立体、平面、版画各室でアトリエ環境を考慮し、場を共有し参 加者が、自主的に制作に取り組むプログラム。指導員は適切 なアドバイスができるように努めます。
7	4月   3月	子どものアトリエ 学校のためのプロ グラム	子ども のアト リエ	学校教育、教師と連携したプログラムを開催します。 年間 90 日小学校 35 校、幼稚園・保育園 35 園、養護/各種 学校 20 団体
8	4月   3月	子どものアトリエ 個人造形プログラ ム	子ども のアト リエ	幼児・児童を対象にワークショップを中心とした体験型のプロ グラムを充実させます。 わくわく日曜造形講座 全 3 回 11 講座

平成 23 年度業務計画 横浜美術館

				わくわく1日造形講座 6講座 夏休み造形講座 全3回3講座 長期日曜造形講座 2講座
9	4月   3月	子どものアトリエ 親子のフリーゾーン	子どものアトリエ	年間42回開催。公募の市民ボランティアとの協働を図ります。
10	4月   3月	子どものアトリエ 指導者育成事業	子どものアトリエ	教師のためのワークショップおよび指導者研修を行います。春期・夏期講座開催(各全2日)など。
11	4月   3月	子どものアトリエ 鑑賞教育事業	子どものアトリエ 展示室	・「夏休み子どもフェスタ2011」夏休み期間中の小・中学生に対する鑑賞教育に取り組みます。この取り組みは中学校の美術教師による「アートティーチャーズサポーター」及び公募の鑑賞ボランティアと協働します。・「子どものアトリエ“ミニギャラリー”」での展示(年間2テーマ)・「アートティーチャーズデー」企画展ごとのティチャーズレクチャーデーを開催します。
12	4月   3月	Heart to Art	全館	横浜美術館と企業の連携活動をおこない、協賛金(物)を獲得します。
13	4月   3月	美術館塾	8F 展望台 アート ギャラリー 展示室	・横浜美術館の観客誘致と美術普及を目的として、多様なアートシーンに出会い、そして学ぶ、スクーリング形式の講座と公開形式のレクチャーを行います。 ・本物と出会う体験を深め、美術への興味を広げ、市民の多様な好奇心に応えます。 ・市民の交流や生涯学習を支援します。
14	4月   3月	観客誘致 施設利用促進事業	全館	・観客誘致のためのイベントを開催します。 ・レクチャーホールの利用促進をします。
15	4月   3月	企業広報誘致イベントの開催	全館	・横浜美術館を広報露出するための施設利用を誘致します。 ・横浜美術館を広報を目的として広告掲出や広報イベントを開催します。
16	4月   3月	美術作品	—	・収蔵美術品管理のための撮影、修復、薫蒸を行います。また、収蔵作品のデータベース化を着実にを行います。 ・平成22年度新収蔵作品目録を作成します。
17	4月   3月	横浜美術館コレクション・フレンズ	全館	・収蔵作品の保存と展示にかかる経費を市民の皆さんから支援してもらおうプログラムを継続します。

平成 23 年度業務計画 横浜美術館

18	4月   3月	広報・情報	全館	・メールマガジンや各種ツールを利用して横浜美術館を広報します。
19	4月   3月	美術情報センター	美術情報センター	美術関連図書資料等の収集、保存、整理及び活用。企画展や時節のテーマにあわせた特設コーナーの設置や市民を対象とした利用普及事業を開催します。年間を通じて市民ボランティアを公募し受け入れます。また、インターネットを通じて広く一般に蔵書検索公開を行います。
20	4月   3月	横浜美術館コレクション収集調査	—	購入、寄贈、寄託による作品収集をすすめるため、収集候補作品の調査、資料作成などを行います。
21	4月   3月	横浜美術館研究紀要発行	—	横浜美術館および横浜における美術・文化に関する活動と研究の成果を、論文等にまとめ、梗概の英訳を付して刊行します。美術館職員等が執筆する研究論文等を三編程度掲載します。
22	4月   3月	子どものアトリエ企画運営委員会	子どものアトリエ	学校との連携を前提として年度末に「企画運営委員会」を開催し、子どものアトリエ事業の企画、運営についての報告と意見をいただきます。
23	4月   3月	特別鑑賞会	全館	・展覧会と施設利用を組み合わせた企画商品を販売します。
24	4月   3月	ミュージアムショップ	ショップ	収蔵作品や各企画展の関連グッズ、横浜美術館への関心を呼ぶグッズ、美術への興味を高めるグッズ等の販売を行います。
25	4月   3月	カフェ	カフェ	カフェサービスを提供します。企画展毎に、展覧会との相乗効果を生む特別メニューを設定するなどし、美術館の付加価値を高めます。